

旅行記 ブレグジット前のアイルランドへ



整形外科
安光 正治



海外旅行記の依頼を受けたものの、つい数年前まで我が家の海外旅行と言えば周防大島か九州だった初心者だったので、何をどう書けばいいか悩みました。初めて e-ticket (控) を見て、その概念について旅行会社に質問したとか恥ずかしくて書けませんし、いざ出発！だったのに、錦帯橋空港離陸が1時間弱遅れて羽田で走らざるを得なかったとか、さらに、ミュンヘン空港で周りの人についていって予定と違う階へ行ってしまう、入国審査を通過していないことに全く気づかないまま乗り継ぎ便のチェックインカウンターを探して右往左往、ギリギリやっと間に合ったとか、恥ずかしいことばかりだったのです。



北アイルランド
アイルランド

今日の標語 乗り継ぎ時間には、十分余裕！
乗り継ぎでもシェンゲン協定国*では入国審査もお忘れなく

*ヨーロッパの国家間において国境検査なしで国境を越えることを許可する協定

これまで夏休みには博多によく行っていましたが、どうも家内では不評だったようで「また博多なの、もう飽きた」と言われるようになっていました。そんな中、娘が家を出て行った年のある日、妻が新聞広告を出してきました。広島 / 岩国発 魅惑のスペイン旅行だったか、名前こそ忘れましたがスペインの主要観光地を巡るツアーのものでした。これまで長い旅行などできませんでしたから、長年待ち焦がれていたのでしょうか。翌日帰宅すると地球の歩き方、るるぶ、さらに他旅行会社のパンフレットがテーブルの上に。完全に押し切られています折角なので色々調べてみました。

ツアーの多くは、ここぞというスポットはおさえていますが、日中のバス移動が長く、流して観光する感じでつまらなさそうでしたので、マドリッドとバルセロナ(表紙写真)だけにはなりましたが、初めてなのに航空券、ホテルを自分で自由に選択できるパッケージにして、高速鉄道も別にネットで予約しました。冒頭の話の時のことで、出発時からどうなることかと思いましたが、終わってしまえばいい経験で、次はどうぞともなるなと変な自信もついたように思います。

そんな経験があった為でしょう、初心者なのに今年は



比較的マイナーと思われるアイルランドへ行ってきました。乗り継ぎ時間によっては周囲を観光できるという知恵も得て、パリ乗り継ぎにしてパリの街も観てやろうと目論みました。パリ・ドゴール空港には朝4時過ぎに到着。まず、ノートルダム大聖堂(写真①)へ向かい、セーヌ川のほとりで夜明けを迎えました。数ヶ月前の火災の為立ち入り禁止ですが、逆に今しか見れない所でもあります。その後、ルーブル美術館の前を通りエッフェル塔(②)、少し戻ってシャンゼリゼ通りを回り凱旋門へ(③)。早朝ですのでどこも入れませんが、パリの街をプチ散策できました。凱旋門近くのバス乗り場から空港へ戻りアイルランドのダブリンへ向かいます。



ダブリン空港では入国審査に時間がかかりました。EU内パスポート専用ゲートがあるのですが、それ以外は長蛇の列です。目的、滞在日数、職業も聞かれ、帰りの航空券提示も必要でした。日本からバスの予約もとっていたので、間に合うか気が気ではありませんでした。

ダブリン空港からバスでゴールウェイ(④)へ。魅力、なかなか説明しにくいのですが、街も、ホテルも、ショッピングセンターも、とにかく心が落ち着く気持ちのいい所です。9月下旬にはオイスターフェスティバルがある牡蠣で





有名な街ですが、ちょっと時期が早すぎて、名物を探してもイギリス(以下UK)のものかと思っていたフィッシュ&チップス(⑤)か、ハンバーガー、朝食のIrish breakfast(⑥)くらいしかみつかりませんでした。短期海外旅行で日本食を食べるなんて馬鹿らしいと思っていましたが、今回は行ってしまいました。地球の

歩き方では「わかフェ」となっていますが、令和になるとともに「Wa sushi」と改名されたそうで(⑦)、語学留学

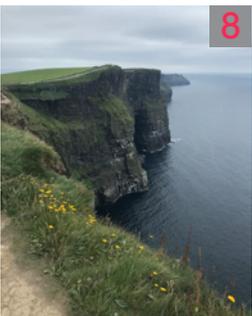
で訪れたのに、住みやすくてつい住み着いてしまったという日本人女性がされています。写真左下は餃子です。これ、結構いけます。



翌日モハーの断崖(⑧)ツアーへ。ガイドさんの話によると2週に1人くらい落ちて危険だということでした。1mくらいの高さの石の壁があるのですが、多くは、それを越えた崖っぶちを歩いています。落ちるはずです。

次いでダブリンへ。トリニティカレッジ(ニュートン(⑨)が学んだ大学)、テンプルバー、ダブリン城、そしてダブリンと言えばここは外せないギネス・ストアハウスへ。

勿論、最後は最上階ホールでギネスビール乾杯!うまかったです(⑩)。



最後は北アイルランド(UK)のジャイアンツコースウェー



(タイトル写真)へのツアーです。途中、映画ロケ地で有名なダークヘッジ(⑪)、混むとなかなか渡れないと聞くキャリック・ア・リードローブリッジ(⑫)(橋の上には8人まで)にも立ち寄りました。

UKはEU離脱(ブレグジット)でもめています。北アイルランドとアイルランドでは流通通貨がポンド、ユーロと異なりますが、現在はどちらもEU加盟国なので両国間移動には物理的障壁はありません。しかし、ブレグジットすると本来は物理的国境が必要で、それをどうするかがバックストップをどうとかの話につながります。20世紀の終わりのベルファスト合意まで紛争の絶えなかった北アイルランドの歴史を考えると、その帰属問題にも発展しうることで、皆が納得できるいい解決法がないのはUK政府、議会の様子から想像できると思います。

ラグビーワールドカップで日本も対戦したアイルランドは、北アイルランドとアイルランドの合同チームで国旗がなかったこととか、「イギリス」チームはなく、イングランド、スコットランド等UKを構成する国のチームだったことに気づかれたでしょうか。日本では単にイギリスと呼ぶことが多いのですが、グレートブリテン(島)と北アイルランドの連合王国<United Kingdom of Great Britain & Northern Ireland>(つまりUKなのです)であることを知らないと、これらの話が理解できません。実は予約した時ブレグジットのことをすっかり忘れていて、北アイルランドへ問題なく行けるかどうか不安でしたが、何の障害もなく、いつ国境を通過したかもわかりませんでしたし、貴重な体験ができたと思いました。

ジャイアンツコースウェーは世界遺産に登録されています。玄武岩の柱状節理と呼ばれるもので(日本では東尋坊が有名)5-6角の柱が無数に並びます。帰路立ち寄った北アイルランドの首都ベルファストにはタイタニックベルファストもあり、北アイルランド問題の歴史に触れることのできる街でもあるのですが、市庁舎(⑬)周囲を歩いただけで、これらに訪れることができなかつたのが心残りでした。

アイルランド、何があるかと聞かれると「自然、崖しかないかも」と答えてしまうかもしれませんし、何がいいか説明しにくいのですが、理屈ではなく「いいね!」したくなる国でした。ヨーロッパ各国に行った後最後に行く国、通好みと聞いたことがありますが、わかるような気がします。

皆様も機会あれば是非。おすすめです。

